

天草竹細工

あまくさたけざいく



「天草竹細工」

本町の竹細工は、250年以上の伝統があり、本町宇土の窪地伸右衛門がしょうけ作り(竹細工)を始めたといわれています。「木六竹八」と呼ばれるように、竹の伐採時期は陰暦の8月以降が最も良いとされているため、この時期に真っ直ぐに伸びた素性の良い用材を大量に蓄え、これを加工しています。

昭和30年まで生活用品、農耕具として広く使用されていましたが、現在では化学製品の普及により需要が少なくなりましたが、質の良い真竹を素材にした天草竹細工は、県の伝統工芸品として指定を受けています。代表的な製品は、一斗じょうけ・こまじょうけ・飯じょうけ・柄付けじょうけ・目籠・手籠・醤油手籠・花籠・蚕籠などで、実用性と優美さを兼ね備えた手作りの工芸品として有名です。

名人として名を馳せた5代目多吉氏によって天草一円にその技術が広まり、7代目貞由氏は、卓越した技術が認められ物産展におやいて金賞を受賞。その他数回にわたり表彰を受けました。8代目窪地成俊氏は、昭和59年、繊細な竹細工の技術と実用性と美しさを兼ね備えた生活用具としての竹かごが評価を受け、熊本県伝統工芸継承者として認定されました。